



## 巻頭言

会長 徳光 正子



三十年ぶりにパリを訪れた。空港から車で通りぬけたフォンテンブローの森は、みごとに黄一色だった。時差疲れも忘れてポンヌフからセーヌ河の遊覧船に乗ってライトアップされたエッフェル塔や凱旋門、ルーブル、オルセ、ノートルダム等々眺めつつ満ち足りた気分になる。月並みだけどモナリザやミロのヴィーナスを見学して、圧倒的な迫力の宗教画を駆け足で観て廻る。十字架かから降ろされたキリストと廻りに立たずむ母マリアと弟子達の絵は、静かで清らかで感動的だった。夕暮れのモンマルトルの丘、そびえ立つサクレクール寺院は、ため息がこぼれる程の美しさだ。一人でメトロや市バスにも乗ってみた。テレビで知ったストリートミュージシャンの姿にも出会った。サルトルやボーボワールが語り合ったという老舗のカフェで、サンドイッチの昼食を取る。パリのパンはおいしい。そして行き交う人達が、皆どこかおしゃれである。特にマフラーのあしらいが素敵だ。パリ最古の教会のひとつサンジェルマンデプレ教会ではローソクに灯をともして祈りをささげた。仕事での短い旅だったけれどパリの秋を満喫した。

パリと大阪、類似点が色々ある。シテ島と中の島、言葉や街へのこだわり、庶民が芸術や文化を愛し育てた等々。しかしいつの間にもやたら大きな開きができてしまった様で残念だ。

古い建築物や歴史伝統を大切に守る。芸術や文化においては一步も譲らないまでのプライド。多国籍人種が共存するだけに、ルールはシンプルで、それぞれの自己責任で処する大人の社会なのだ。しかし便利だけれども画一的な日本に比べて、パリには暮らしがあり、芸術を愛する心の豊かさがある。

英語のKINDは、語源が種である。お互いが違う土壌で育った種、違って当たり前。それぞれの違いを尊重し認め合うことが、優しさなのだ。まだまだ世界には戦争、飢え、貧困、様々な問題がある。国際ゾンタに属する私達も、国や言葉の違いを超えて共通の目標に向かって協力し合えば大きな力となるだろう。大いに期待しながら今年の活動に励みたい。



2003.12. クリスマス会 (於 くいだおれ)



## 歓迎晩餐会から亜洲之夜に参加して

笠置 伸子



11月8日7時より葉金鳳（チン・フォン・イエ）ガバナーの開会宣言でWelcom Dinnerが始まりました。11名の曲技団による獅子舞を披露がされ、その後、京劇の三国志観劇致しました。どちらも絢爛豪華な舞台で次々と目を見張りました。日本の獅子舞、歌舞伎と大きく共通点があり、長い歴史の中でつちかわれた舞台芸術がよく理解できました。また衣装、化粧、舞台の中の動き方等が、文化の継承の結果、二カ国の相違点を感じながら観劇しました。

二日目のCultural Night Banquetは、寸隙と実演で、高砂民族の歴史、生活様式、民族の実生活を見せて頂きました。私が驚いた事は、日本ではアイヌ民族、沖縄民族は、大和民族に溶け込んでしまい、純粋な血を保っていく事が出来ませんでした。しかし高砂民族では今も、純粋な民族を保持し受け継がれている事に大きな驚きを覚えました。この事は、台湾の中国人の大きな協力と理解があってこそ可能な事だと考えました。

三日目のAsian Nightは、最後の夜だというセンチメンタルな気持ちと分割が次の地区大会に持ち越しされたという事でとてもリラックスした雰囲気の中で行われました。ほとんどのゾンシャンがそれぞれの民族衣装を纏い、桃源郷かと思われる程の美女揃いでした。最初は台湾のクラブに

よるダンスと歌、それに続き韓国のクラブの歌など色々と披露されました。その中で食事を頂きながら色々な人達が、交じり合って写真を撮ったり、各テーブルを行き来しておりました。そして日本のクラブによる炭鉱節の時には、日本のゾンシャン一同が踊り、段々と盛り上がり会場の中で大きな踊りの輪を作りました。国籍、エリアに関係なく近くにいる人の肩に手をかけ踊りました。札幌ゾンタクラブがソーラン節をした時には座ってる人が一人もいませんでした。皆、手に手をとって踊り民族、国籍を超え、団結しているという感じでした。

今回、三分割が否定されましたが、分割しなければならない、という事実はよく理解しています。しかし国際的な雰囲気の中で地区大会が行われなくなるというのは、とても悲しい事だと思いますし、交流範囲が狭められるのもゾンシャンとしては辛い事だと思っております。



マーギット・ウェビヨン会長

## 京都雅ゾンタクラブ創立10周年記念式典に参加して

西村 博子



夏の到来を告げる祇園囃子が聞こえる京都の街に、1993年7月世界で1421番目国内では29番目のクラブとして京都雅ゾンタクラブは認証を受けられました。以来その活動はしっかりと地域に根をおろされ、力強く展開されてここに10周年を迎えられました。おめでとうございます。

式典は11月4日（火）都ホテル京都に於て、国際ゾンタ会長マーギット・ウェビヨンさんをはじめ、26地区ガバナー チン・フォン・イエさん、26地区の役員の方々、また京都府知事、京都市長、教育長そして支援団体のご代表の方々をご来賓に迎えられ、全国からの多数のゾンシャンと共にそのお祝が喜びのうちに行われました。私達クラブからは徳光会長、宮本会員、西村の3名 出席いたしました。

式典でのご報告から雅ゾンはこの10年その活動を積極的にはば広く展開されてこられた事を知りました。国際ゾンタを通じての国際奉仕活動の他、とくに地域奉仕として1998年社会福祉指導者養成の必要性を考えられて社会福祉指導者養成基金を設立し奨学金として活用されていること、法務省主唱の社会を明るくする運動に参加されたこと、心身障害者通所施設、老人福祉総合施設、青少年自立援助ホームやかけこみシェルターなどに、必要とされる支援活動をこのようにはば広く積極的に長期にわたり展開されており、そのエネルギーに感嘆いたしました。

記念講演会では「男女・法の下での平等-私は女の幸せを憲法に書いた-」と題してNY在住のベアテ・シロタ・ゴードンさんが来日され、流暢な日本語による講演を聞き感銘を

受けました。日本国憲法が公布されて57年、その憲法の草案に男女平等の女性の権利を書き入れるという大仕事をして下さったベアテさんの存在なくして今日の私達日本女性の姿はなかったかもしれないのです。

ベアテさんが憲法草案作成に携ったのは、戦後、GHQ民間要員として日本に赴任した22才の1946年の時でした。幼少の頃より父の仕事の関係で日本に在住、そこで日本の女性の状況を見てこられていた事から、日本女性は家庭での女の役割をしっかり持っているのに社会的権利を持っていない事や日本とアメリカの女性の社会的な地位の違いをとても感じられていたのです。草案は1週間で作成されそこに男女平等の条項が明記されました。憲法公布後、日本女性は投票権を持ちその当時39人の女性代議士が当選、その後日本女性は躍進を続け女性の地位は戦前よりずい分上がりました。今日の日本の女性の顔と動き方には自信があふれ、いろいろな職業を持って活躍していることも話されました。憲法が公布されて57年間、改正がなかったのは世界で初めて。世界平和のために第9条は大切です、平和でないと文化も芸術も育たない、基本的人権も守られないという事につながるのです。女性の権利を毎日の暮らしに入れるのはそんなにたやすい事ではないのですが、これは全世界の女性の共通の問題で、日本女性は自分たちの進歩を伝えていくことが大切ですと結ばれました。

著者「1945年のクリスマス」をぜひ一読下さい。



## ＝女性と健康＝ 生活習慣病とその予防

田中 茂美



2003年10月18日 講演＝ 大阪Ⅱゾンタクラブ会員 内科医 労働衛生コンサルタント 田中 茂美  
於アイル、モレ、コタ

今回、女性と健康シリーズの講演を開催するにあたり、演者の選定についてテーマ等についてのご相談の集いが8月にあり、経費の都合等により会員で行ないたいとのご意見が多数あり、私がお受けさせて頂く事になりました。身近な健康に関するテーマが良いとの皆様方のご希望に沿う形で「生活習慣病とその予防」、つまり一次予防についてのお話を60分でさせて頂く事となりました。当日の会場は徳光会長のご高配によりアイルモレ・コタにて御来場の皆様にお茶とケーキをお出し頂き、華やかな雰囲気を出して下さいました。身に余る御高配に今も感謝いたしております。私はいつもは、スライドやパワーポイントのプロジェクターを用いるのですが、お話だけで皆様方に理解して頂くようしなければならず少々戸惑いと責任を感じました。また、いつも親しくさせて頂いている方々ばかりですので却って気を引き締めねばならず緊張しておりましたが、御蔭様にて和やかで楽しい雰囲気のうちに「健康」についてのやや厳しく、最近の新しい知見も取り入れた内容にもご理解頂いた様子に演者の責務を果たしたようで、ほっと致しました。その内容について以下に述べさせて頂きます。

現代の医療は「難治性の病気を治療する先端医療」と病気にならない為の「予防医療」の考え方が基盤となりつつあります。一次予防は予防医療の中の身近で基本的な誰しもが知らなければいけない科学です。

毎年出される厚生白書によりますと日本人の寿命は世界一を更新し続けていますが、有病率も高率化しており疾患別死亡割合では、2/3を癌・循環器疾患（脳卒中・心疾患等）が占めています。これらのうち特に循環器疾患は発症と共に多岐に亘る後遺症を伴い結果として痴呆症等の余病も起こし、社会活動の低下や経済的負担・介護等による人的負担を負う事になります。また、どのような疾患であっても「病床で長生き」はQOL: Quality of Lifeとして良いとは言えません。健康な日々があってこそその有意義な人生と言えましょう。死因を左右しQOLを決定する疾患において研究がなされ、予防可能な因子が生活習慣の中にあることが判ってきました。影響を及ぼす生活習慣により起こる疾患を『生活習慣病』と言い、その影響因子は「食生活」「運

動」「休養」「喫煙」「飲酒」の生活習慣であるとされています。一般的に知られている疾患として肥満・高血圧症・糖尿病・高脂血症が挙げられますが、これら全てを合わせもつ人も多く『死の四重奏』と言われる。一次予防としての指標を厚生労働省がまとめて指針を出しています。お話させて頂いた内容を以下に簡単に述べます。

## ① 食生活・栄養

- (1) BMIは22が理想的。肥満の是正の為には適正カロリーを算出し摂取する。
- (2) 朝食を抜くと肥満傾向体質を作る。
- (3) 脂質摂取割合はカロリーの20%に。
- (4) 塩分は一日10g以下。
- (5) 野菜・カルシウムの基本ポイント。多ければ何でも良いのではない。

## ② 運動

各人における適正強度・時間・種類がある。有酸素運動主体・今より1000歩歩く努力をする。

## ③ 休養

ストレス対処の方法を自分で知る。自己破壊型労働は今や社会的にマイナスとなる。メンタルヘルスケアとは何か。

## ④ 喫煙

主流煙より副流煙の害が大きい事が判り(有害物質含有量が50倍の報告あり)研究され健康維持法第5章25条が有名となった。

## ⑤ アルコール

一日の適量純アルコール量について。20g以下

## ⑥ 歯

歯肉炎・歯槽膿漏の予防法

## ⑦ 循環器病

特に高血圧の治療中の人は650～680万人。正しい血圧の管理は自己測定を朝・夕継続的に行なう事である。特に早朝の脳卒中・心疾患の発作が多く死亡率も高い事から測定ポイントについて説明した。高齢者の血圧管理のポイントについて。

## ⑧ 糖尿病

現在予備軍を含めて約1300万人とされる。年齢が高くなるほど発症率も高い。遺伝因子の上に内臓性肥満・運動不足・ストレスによる副腎皮質ホルモン分泌上昇が重なり発症し易くなる。コントロールはHbA1Cを正常に保つ事が目安。食事療法も常に単に減食すれば良いは間違い。効率の良い栄養摂取は何か。運動療法も適正量、消費カロリー等の根拠に基づいて行なう。

## ⑨ 癌

癌にならない12か条について。

癌の危険因子として食物が35%・タバコ30%を占める。同じ食生活の反復は本人が良いと思っても要注意で時々見直しが必要。この10年で前立腺癌・大腸癌・肺癌・膵癌・乳癌が急増しており特に肺癌・膵癌は難治性が高率。





皆様方の中には「個人の健康」と言うものは、抽象的で個人的な価値観を強く抱いている方が多いと思いますが、『健康の維持と生活習慣病の予防』については国が取り組むべき施策の1つとしている事から判るように「個人の健康」は個人の資産であると共に大きな社会資産でもあります。資産でありますから、良い状態で維持するには多大な労力

が必要になります。その労力が「予防」と言われるものです。健康を失った時の苦しみは単に本人のみに留まらず、金銭にも変えがたいものがあります。この私の講演では、『健康』がいかにか具体的で形のあるものか、失わない為に何をすべきかを僅か乍もご理解頂き日常の行動変容の一助として頂ければ幸いに思います。



安芸コスモズンタクラブ国際ゾンタ加盟認証状伝達式 出席報告

徳光 正子



2003. 11.6

前日の雨がすっかりあがって、まるで新しい門出を祝うかの様に美しい秋晴れの中、全国からゾンシャン達が、安芸コスモズンタクラブの国際ゾンタ加盟認証状伝達式の祝いの席に集まった。嬉しいことに、マーギット・ウェビューン国際会長直々に認証状伝達が行われ、私自身も10年前を思い出し、安芸の会員の方々と共に、いささか身の引き締まる思いがした。チン・フォンガバナーも名誉ある認証状伝達式であると話され、ゾンタの大家族として共通の理想に向かって努力をしようと熱いメッセージを送られた。また、藤田雄山広島県知事、秋葉忠利市長も公務ご多忙の中ご参列くださり、行政面においても男女共同参画の施策が進められていることもあり、安芸ゾンタクラブに対する大いなる期待を持ってご挨拶して下さいました。

国際情勢不安定なるこの時代に、人類が初めて原爆を経験した土地、広島に新しくゾンタクラブが誕生したことはまことに考え深いものがあり、それだけにその役割の重大性と共に私達の期待もまた大きいものがある。三宅定子委員長他SOMクラブとして見守ってこられた岡山ゾンタクラブの方々にも心からお礼を申し上げたい。今や全ての人達が内向きで、新しいことにチャレンジすることをためらう状況の中で、安芸ゾンタクラブでの誕生は、私達に勇気と元気を与えてくれた。

厳粛な式典の後の楽しい祝宴、翌日のエキスカーションでは古典雅楽の奉納までご用意下さり、中畠千恵子会長はじめ会員の皆様のあたたかいおもてなしの数々、秋の日の素晴らしい思い出の1頁となった。

我愛する大阪Ⅱ会員田中淑子会員が、骨折されたのが残念だったが、その折にも大変お世話になった。ありがとう、これからもよろしくと大阪よりエールを送りたい。







2003. 11. 5.

岐阜ゾンタクラブが創立20周年を迎えられました。その記念式典と感謝のつどいが、2003年11月5日に開かれ、私達のクラブからは、久岡姉（お母様も御一緒）と私が、出席させて頂きました。場所は、長良川をのぞむ高台に立つ岐阜グランドホテル。この絶景の地にマーギット・ウェビョーン国際会長や岐阜県知事等賓客を迎えて、なごやかな中にも格式高く式典がとりおこなわれました。

開会のことば、ゾンタソング斉唱、物故会員の追悼、SOMクラブへの花束贈呈と式典は進み、次に岐阜ゾンタクラブの継続事業が紹介されます。ゾンタ文庫、スリランカ幼児学校、留学生への援助など20年の活発な活動とうかがわれ私達のクラブも大いに学ばせて頂きたいと思いました。また会長さんと高校で同級という梶原知事さんのごあいさつや、クラブが支援されている希望が丘学園の園児のかわいらしい感謝のことばもあり、和やかな雰囲気の中に式典は終わりました。その後学校で国語を長く教えていらっしゃる吉田豊先生のユニークなお話や、鶴匠の名家杉山家の当主杉山氏の、実際に鶴を使っての鶴飼の説明に、笑っ

たり感心したりするうち、ロイヤルホールでの式典は終わりました。

夜の部は、ピーターによるチャリティーコンサート。妖艶なピーターが、たっぷりとおなじみのシャンソンを聞かせてくれ、秋の長良川の夜は、あっという間に過ぎていきました。（夜の部は久岡姉談）

帰りはおみやげのアンパンまでいただき、岐阜ゾンタの皆様のお心づかいに深く感謝し、帰路につきました。



みちのく 五人旅

川村 くに



秋の東北を満喫しようと田中茂美さんが「紅葉満喫・東北秘湯の旅」を計画して皆に声を掛けてくださった。私もどこかへ出かけたいと思っていたので、すぐお願いした。奥入瀬の紅葉の見頃は十月下旬の約一週間だけだ。花の命も短いけれど紅葉の葉の命も短い。

10月24日朝、秋田空港に降りたった熟女五名（正確には熟女四名老女一名。宮本 牛田 田中 久岡 川村である。）は、チャーターしておいたジャンボタクシーに乗り込み、佐竹氏二十万石の城下であった秋田の町にくり出した。先づ昼食を郷土料理店でとった。待望のキリタンポをいただき、山菜や珍しい魚料理をいただいて東北の味をかみしめた。

午後から角館へ移った。みちのくの小京都といわれる城下町で武家屋敷や古い土蔵造りの商家が並ぶ町なみは、しっとりとして落ち着いたたたずまいをみせている。又黒堀の内にも大きなしだれ桜が多い。寒い冬をこの地で越した桜は春には素晴らしい花を付けるだろう。

お店めぐりはその土地の生活をのぞくような楽しみがある。私は「おふくろの味」という小さい本を買った。東北のおばんざいに似たものが出来るかどうか、早速ふるふき大根を作ったらやはり一味違った。

今日の宿は乳頭温泉郷の一つである温泉妙の湯である。車は田沢湖にさしかかった。田沢湖に映える夕日はとってもきれいで、私は思わずシャッターを切った。

乳頭温泉に到着した時には外はうす暗くなっていた。待望の温泉にゆっくり入り露天風呂にも入り皆が満足した。

次の日は十和田湖遊覧をしてから、この旅のハイライトである奥入瀬渓谷へ向った。私達は子の口で車を降り、溪流沿いの道をゆっくり歩いた。瀬音高い流れには滝あり瀬

あり岩打つ激流あり、とても美しくて豪快な渓谷である。兩岸には檜の木柵の木が生い茂り真赤に又黄金色に文字通り錦織りなす紅葉の素晴らしい渓谷であった。

私は時々立ち止って、シャッターを切ったりしったりして歩調が遅れると四人の熟女が荷物を持って下さったり、手を借して助けて下さったりお陰でとても快適で楽しい「もみじ狩り」ができた。

二泊目は八甲田ホテル泊り、このホテルは直径1m以上はあるかと思われる材木を組んだログハウスである、高い天にシャンデリア、ひなびた感じにしつらえられたレストランで地場産の材料で作ったというフランス料理をゆっくりいただいた。

みちのくにどっぷりと漬った三日間であった。







2003年11月8日～10日 於台北圓山ホテルにて

今年の台北地区大会には大阪Ⅱゾンタクラブから笠置伸子と宮本典子が出席いたしましたのでここにご報告いたします。

11月7日関西国際空港について私達がまずしたことはマスクを買うことでした。(でも二人ともつけるのを最後まで忘れていました!) 空港のレストランでは国際会長のウエビヨンさん、ガバナーの葉金鳳(チン・フォン・イエ)さんそして今泉財団大使さんはじめ、多くの日本のゾンシャンにお会いしました。皆さんは、京都雅ゾンタクラブの10周年記念式から前日の安芸ゾンタクラブのチャーター式まで連日エリア4のゾンタの行事に参加されたそうでした。航空機も同じでしたが国際会長はお一人で資料のようなものを読んでおられ、ほんとに大変なこと、とお見受けしました。空港にはエミライ前財団大使はじめ台湾のゾンシャンが沢山来ておられて、車の手配などして下さいました。

#### 11月8日 開会式

台湾副大統領 呂秀蓮さんがお見えになりメッセージをされました。

#### ビジネスセッション

チン・フォン・イエガバナーの開会宣言に続き、今回の大会委員長セシリアクウ様への黙祷があった。登録委員会の報告では出席者は、地区役員、ゲスト、をいれて384名うちデリゲートは58名であった。大会ルールが読み上げられ、プログラムの承諾、前回の地区大会の議事録承諾、国際会長のメッセージそして地区の理事会から報告があり本題に入った。

90日前に提案されていた2つの議題のうち前回の地区大会の残金を地区費に組入れるというものは多数で承認されたが次の提案、地区を3分割して日本、韓国、台湾の3地区にするという日本のクラブの提案は議論が分れ、その中で韓国と台湾を一つにし、日本を一つにという2分割修正案が出された。議論ではこの案でも日本が一つになるのだからそれでいいではないかということであった。修正案が先に採決されるのが普通であるがこのように重

要な修正は90日前に提案され、クラブで議論されるべきであるという理事会の判断でまず3分割案が採決されることになった。日本のクラブは数が多いから採決すればそのまま決まるのではないかという採決に対する反対意見もあったがウエビヨン国際会長の、ゾンタはクラブで構成されているので国でものごとをきめるのではないというとりなしで、とりあえず採決することになった。微妙な問題であるから投票で行った。結果は34対48で否決され、陰悪なことの成りゆきに心配していた一同はほっとした。その後は大きな問題もなく和やかな雰囲気の中で議事は進行した。

午後は台北市長の講演があった。台北市で子供と女性の為にしたことは安全で清潔な町にする。とくに地下鉄、トイレの整備をし、犯罪がとてすくなくなったそうである。(前回の地区大会から今までの間にとてもきれいになった)

選挙は分割が否定された方の案の候補者で行われ全員当選された。エリア4のディレクターは後藤さんとなった。会場のお花がきれいだった。分割が延期になり、韓国台湾のゾンシャンはとくに喜んでいて、奉仕の会が僅差で物事を決めてはいけなかつくづく思った。全員が納得のいくようにしなければ。



呂秀蓮 副大統領





私の半生

久岡 眞佐代



私の54年間の人生の中で平成15年ほど短かった年はありません。休日を自宅で過ごしたのは1年間で2〜3日でした。仕事もゾンタも家庭（大学受験生2名あり）も多忙を極め、それに加えて阪神タイガースの応援で星野監督の言葉通り、本当に「しんどかった」1年でした。

年齢を重ねるごとに時の流れが早くなっていくと聞きます。このあたりでそろそろ人生の折り返し点での総括を想う今日この頃です。そういった心境から平凡な人生ですが、「私の半生」という題名を思い立ちました。

私は、昭和24年9月13日、父政吉、母幸子間の長女として福岡県の九州大学医学部附属病院で生まれ、公社職員であった父の転勤により福岡、長崎の各地を転々となりました。当時の私の性格は、一人っ子で転校が多かったこと、両親がいつも夫婦喧嘩を繰り返して円満な家庭ではなかったことから、内向的で神経質でした。小学生の頃、友達の家泊ったとき、友達の両親と兄弟が1つの部屋で仲良く布団を並べて寝ている姿を見て羨ましく感じたことを今も鮮明に覚えています。この子供時代の光景がトラウマとなって、私は、2人の息子が小学4〜5年生になるまで1つの部屋で川の字になって寝ていました。

私が中学生のとき両親が協議離婚し、母は東京で仕事をする事になり、私はしばらく父と暮らしましたが、父も再婚することになり、両親が話し合って中学2年の3学期から高校卒業までの4年余り、母の実家で祖母、叔母（母の妹）、猫1匹と暮らしました。母の実家は、福岡県浮羽郡吉井町にあり、今も白壁の町並みが残り、北に筑後川、南に耳納連山に包まれた豊かな自然の中にあり、ここでの生活は私の性格を明るく変え、私のふるさと、私の人生の原点となりました。

昭和43年4月、早稲田大学文学部に入学しましたが、大学紛争の最盛期の中で思い悩むうちに、20歳の誕生日を迎えたとき、弁護士になることを決意しました。昭和45年4月、中央大学法学部に入り直し、その後何回も司法試験に挑戦し、生来の根気強さが功を奏し、昭和54年に合格し、以後今まで弁護士業を続けています。

今から思うと、両親が離婚したため、母の面倒をみて行くには資格を取りたいという独立志向がありました。また、父が法務担当の仕事をしていた関係で自宅に法律雑誌があり、

中学生の頃に八海事件（強盗殺人事件で一旦は死刑判決が下りたが、後に無罪となる）という有名な冤罪事件の判決を読んだことがあり、その頃から漠然と法律に興味を感じていたのです。

昭和56年5月、司法修習時代に隣の席におりました現在の夫と結婚しました。当時、夫から「20歳頃に私の写真と記事が載っていた受験雑誌を今も持っている。司法試験の最終面接試験を終えた後、渋谷まで帰るバスの中で私と一緒にいた」という運命的な出会いの話が聞かされて結婚してしまったのです。お互いに不満はありますが、仕事柄、多数の不幸な離婚事件を見ているので、それが逆の意味での「隣の芝生」となって、まだましかと我慢できるのです。

昭和57年5月、夫が勤務した弁護士事務所の紹介で大阪Iゾンタクラブの佐々木静子先生の法務事務所に勤務することになりました。佐々木静子先生は、私が最初に法律に興味を持った前記八海事件の担当弁護士であり、不思議な縁を感じつつ8年間もお世話になりました。

私は、今でも依頼者に弁護士料を請求するのが苦手で経費倒れになった事件も多数あります。弁護士の仕事はボランティアという感覚がなければ続けられません。その意味でゾンタの精神と通じるものがあります。最後に、私の残りの半生は、ゆっくり人生の景色を見ながら歩いて行きたいと思っています。



大津ゾンタクラブ クリスマスチャリティバザー&パーティー 出席報告

中塚 淳子



2003年12月5日（金）大津市浜町の琵琶湖ホテルに於て行われた。滋賀県は私の故郷でもあり、なつかしさも加わり参加させていただきました。

仕事の関係でバザー&ミニコンサートには間に合いませんでしたが、パーティーには参加させていただきました。

終始、ファミリー的でなごやかな雰囲気でした。

最後に大津ゾンタクラブの方々が「世界に一つだけの花」にあわせダンスをされたのが皆様の一生懸命さが伝わり印象的でした。大阪Iゾンタクラブの会長様と副会長様と同席。そのまま3人で楽しく帰阪致しました。





この度、ゾンタⅡに入会させて頂きました内田恵子と申します。現在は、都島区で皮膚科を開業しております。当時東区にあった大阪市立船場中学校で、徳光正子様と机を並べておりました。いわゆる団塊の世代の後半にあたり、生徒数も多く、様々な個性を持った友人に恵まれておりました。

大阪の船場という土地柄、しっかりとした家風や良識ある、ご家庭の子息が集まり、自由なことを言い合いながらも、切磋琢磨しての楽しく懐かしい時代でした。大学では、内藤恵子様の一年後輩にあたり、この度の入会も内藤様のご紹介によるものです。ちょうど下宿が近くて、大阪出身の先輩という事で、何かと頼りにさせて頂いておりました。

大阪に戻ってからは、仕事と二人の息子の子育てとで無我夢中の毎日でした。ふと気がつく、忙しいだけの潤いの無い日々を送り、さしたる趣味もない自分の不甲斐なさに思い至りました。

これからは、少しでも社会参加と云いますか、お仲間に入れて頂いて、バランスの取れた生き方をして行きたいと願っております。仕事時間と重なって、中々出席出来ないこともあります。ゆっくり、長い時間をかけて大阪Ⅱゾンタクラブの会員になっていたら有難いと思っております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

委員会活動

職業分類委員会

15年7月10日入会候補者2名と面接、会長と委員長出席於ベラコスタ

企画委員会

3月4日のチャリティーコンサート、10月2日チャリティーイベントの準備計画中です。

親睦委員会

会員の誕生日にゾンタのシンボルである黄色いバラをプレゼントしています。2003年の忘年会にはプレゼント交換として各自が拘る食べ物を持ち寄り、和気あいあいと説明し会員同士の親睦をはかりました。

女性の地位委員会

1月例会でアメリカイヤハートを取り上げました。アメリカに続くような人材育成に協力し続けたいと決意を新たにしました。

国際委員会

2つのシスタークラブ（ジョンソン、カウンティエリア、アトランティックシスターエリア）に大阪ⅡZ.Cの会員で寄せ書きしたクリスマスカードを送りました。ニューヨークで行なわれる世界大会でシスタークラブのメンバーにお会い出来るのを楽しみにしています。

広報委員会

2003年8月第18号発行発送しました。2004年2月第19号発行予定です。

奉仕委員会

12月13日（土）、百丈山合掌荘の年忘れ会に銭太鼓をもって慰問に行ってきました。



百丈山合掌荘での銭太鼓

予告



大阪Ⅱゾンタクラブ チャリティーコンサート

春はほのぼの

浜村 淳 と 河村 さと子 の

歌とトークで綴る 歌をありがとう

ピアノ 萩原 謡子

ゲスト ハーモニカ もり・けん

◆2004年3月4日（木）

PM6:30 開演（PM6:00 開場）

◆大阪市中央公会堂

大阪市北区中之島1-1-27 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」・京阪電鉄「淀屋橋」下車

◆チャリティー会費 4,000円

編集後記

暮から新年にかけてお忙しい中、会員の皆様の御協力で何とか原稿も間に合い、無事19号の発行となりました。

皆様、有り難うございました。

大阪Ⅱゾンタクラブ 2004年1月10日

2003～2004年 広報委員長 笠置 伸子